高等学校等就学支援金

平成22年４月よりはじまりました高等学校等就学支援金は、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、公立高等学校に係る授業料の不徴収及び高等学校等就学支援金の支給に関する制度です。

国立高等専門学校（第１学年～第３学年）も就学支援金制度の対象となっており、月額9,900円（年額118,800円）の就学支援金が支給されます。支給期間は、原則として通算36月です。また、保護者の所得に応じて一定額が加算されます。

授業料免除制度

授業料の免除は、経済的理由による納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合に、前期・後期ごとに本人の申請に基づき選考のうえ、授業料の全額又は半額を免除する制度です。選考は家計・学力・人物について免除選考基準により、学生委員会で審議しますが、自宅謹慎処分を申請前の６月以内に受けた者、原級留置の者、修業年限を越えた者は、病気・留学など特別な事由があると認められた場合を除き免除の対象にはなりません。

授業料免除の申請時期は、前期分は４月上旬、後期分は９月中旬になっておりますが、事前の説明会で免除申請用紙を配布し、あわせて申込み締切り日についてお知らせします。なお、説明会の日程については掲示・放送および学級担任・専攻長からお知らせします。

奨学制度・授業料免除制度・高等学校等就学支援金についてのお問い合わせは　学生課学生支援係まで　TEL　０２４６－４６－０７３４

行　事　予　定（6月から9月）

6月

1日（水）　学生総会
8日（水）　全校・校外清掃日
　基礎学力標準試験（数学）
　（工学系４学科３年生対象）
9日（木）　定期健康診断（臨時休講）
11日（土）　木曜振替授業
13日（月）～17日（金）
　専攻科学力入試願書受付
15日（水）　後援会総会
　学級懇談会
　寮保護者会
15日（水）～28日（火）
　前期中間試験期間
24日（金）　専攻科学力入試
28日（火）　金曜振替授業

7月

1日（金）　学生臨時休業（開校記念日振替）
1日（金）～3日（日）
　東北地区高専体育大会（仙台・一関）
6日（水）　第２回TOEIC-IP試験（４年・専１年）
13日（水）　学級委員長との懇談会
16日（土）　月曜振替授業
20日（水）～22日（金）
　編入学（推薦）願書受付
27日（水）　インターンシップ事前指導会
30日（土）　寮大掃除

8月

1日（月）　編入学試験（推薦）
　交通安全教室（３年）
3日（水）　金曜振替授業
5日（金）　補講日
6日（土）～7日（日）
　１日体験入学
8日（月）　夏季休業開始（９月４日（日）まで）
11日（木）～17日（水）
　学校閉鎖
13日（土）　全国高専体育大会（関東甲信越地区）
　（９月４日（日）まで）
23日（火）～25日（木）
　全国高専教育フォーラム
29日（月）～31日（水）
　編入学（学力）願書受付

9月

4日（日）　開寮（13：00）
5日（月）　授業開始
　編入学試験（学力）
15日（木）～22日（木）
　前期期末試験
28日（水）　寮防災訓練
30日（金）　前期授業最終日

編　集　後　記

卒業生・修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。今年は卒業式・修了式を開けず、皆さんを直接送ってあげることができなかったことが非常に心残りです。おそらくほとんどの先生が同様の想いであると思います。本来であれば、本誌も皆さんの卒業式・修了式の晴れ姿を掲載し３月中に発行する予定でしたが、震災後の混乱で発行が遅くなり申し訳ありません。すでに卒業生・修了生の皆さんは企業や大学で新しい生活を始めて頑張っていることと思います。本誌を見て、高専での良き日を思い出しながら、さらに活躍して頂ければ幸いです。　　広報委員長　篠木政利

VEGETABLE OIL INK

学校だより

Vol.90
2011.5

Contents

02　校長挨拶
04　祝　卒業・修了
17　学生会
18　卒業生・修了生の進路
20　卒業生紹介
21　磐陽祭（高専祭）
22　学年・学科行事
26　ロボコン・プロコン
　　デザコン・スピーチコン
28　学生の活躍・
　　クラブ活動等の結果
31　学生の表彰
32　新任教職員紹介
33　退職者紹介
34　とぴっくす

福島工業高等専門学校

卒業生・
専攻科修了生の皆様へ

福島工業高等専門学校 校長 奈 良 宏 一

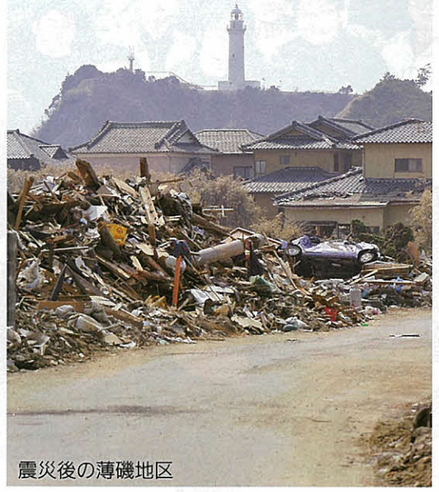
皆様のご卒業・専攻科修了を心からお祝い申し上げます。

去る３月11日、教員会議において卒業判定等の審議を終えた直後に会議室が大きく揺れました。数分間にわたる激しい大きな横揺れに、即刻、教員会議を終了し、全教職員が地震への対応にあたりました。その時点では、津波被害も含めた東北地区の震災被害がここまで大きなものであり、また、原子力発電所がこのような困難な事態に陥るとは思いもよらぬことでした。調査の結果、本校の被害は小さくはないものの、幸いにも、学生・教職員に人的被害はなく、建物被害も授業再開が不可能な程大きなものではありませんでした。被災された学生諸君やご家族の皆様には心からお見舞いを申し上げます。また、地震による建物損壊や断水、さらには原子力発電所事故の影響で会場を確保することが困難となり、晴れの卒業証書・修了証書授与式を挙行できなかったことを残念に思うと共に、皆様のご期待に添えなかったことをお詫び申し上げます。

卒業生・修了生の皆様がこれから向かう社会は、低経済成長が続いた後の先が見えない中での震災からの復興と震災による生産停止や放射線風評による日本の産業（特に工業）に対する世界的な不信からの回復へ向けた、新たな日本の挑戦の渦中にあります。そのような社会で活動するためのキーワードは「情報(Information)」、「国際(International)」、「革新(Innovation)」であろうと思います。まず、大衆化した情報メディアや情報そのものをどのように利用するか、または、どのように管理するかは、これからの社会を生きる皆さんに課された大きな課題と考えねばなりません。さらに、これからの技術者には世界各国に分散した技術を取り纏める能力も求められます。国際性は皆さんが避けて通れない今後の社会からの要請であろうと考えます。グローバル化の中、日本は「日本でなければできないモノづくり」をしなければ世界との競争には勝てません。そのためには、イノベーションが日本の技術者またはビジネスマンにとって必須です。福島高専では、「情報(Information)」、「国際(International)」、「革新(Innovation) または創造 (Creative)」のキーワードを学習教育目標に掲げて皆さんの教育に当たってきました。したがって、皆さんは、これらの能力を高専卒業または専攻科修了レベルで身につけています。３つの１を頭の隅において、さらに勉学を積み、何にでも挑戦する高専マインドで、震災からの復興と日本の信頼回復へ向けて、大いに活躍していただくことを期待します。

卒業式を行えなかったことは残念な思い出として皆さんの心に残るかと思います。この大震災の記憶を忘れることなく、同じ悲劇を繰り返さないように、日本の明るい未来を若い力で創造して下さい。自らの専門分野をさまざまな場面で人類社会に役立てて下さい。卒業生諸君には、自らに自信を持ち、健康に留意し、この大震災を乗り越えて、新しい日本を築いていくことを期待しています。

平成23年４月



震災後の薄磯地区

機械工学科

3年間ありがとう

機械工学科　5年担任　**鈴木　茂和**

５年生の皆さん，卒業おめでとうございます．担任として教室で皆の顔を見てからあっという間に３年間が過ぎました．初めての担任だったので不安と期待が一杯で教壇に立ったのを今でも覚えています．この３年間を振り返ってみると，グラウンドのきれいな夜桜に誘われてフラフラと行って指導を受けたこと以外，ほとんど手間のかからないクラスで，高専生らしい学生が集まったクラスという感じがします．恐らく，低学年時の担任である西山先生の指導があったからこそ，今のクラスがあるのだと思います．

今年の進路状況は，世間一般には就職氷河期などと言われていますが，就職希望者が多いのが特徴でした．幸いなことに機械工学科５年生は早い段階で全員が内々定をもらうことができました．厳しい就職戦争を勝ち抜けたのは，個人の力があったのは当然ですが，その道を作ってくれた諸先輩方がいたからこそだと思います．４月から技術者としてモノづくりの最前線で活躍する皆は，これから後輩のために新しい道をたくさん作ってください．進学は専攻科と長岡技大が多く，成績上位者のほとんどが専攻科に進学します．一人でも多くの人が大学院まで進学してくれるのを期待しています．

４月から技術者として社会の荒波に飛び込んでいく人，学生として更に高度な知識習得に挑戦する人，それぞれの道は異なりますが，ここまで来られたのも親御さんの支援があったからです．卒業証書と一緒に感謝の気持ちをしっかりと伝えてください．そして，その感謝の気持ちを忘れずに立派な技術者になってください．

最後に，担任としての３年間で皆から多くの事を学び，教員として一つ成長することができたと思います．３年間ついて来てくれてありがとう．そして，技術者として成長した姿を見ることのできる日を楽しみにしています．

卒業にあたって

機械工学科　5年　**平野　信**

入学してから早５年がたちました。就職したいと思い高専に入学し、このたび東京電力に内定を頂くことができました。これは寮生活で得たものが大きかったために就職することができたのだと思います。寮では初めての集団生活で戸惑うことが多くありましたが、優しい先輩、頼りになる先輩、面白い先輩、そして苦労を共にすることになった同級生の友人達。いろんな人に助けてもらいながら、楽しく学校生活を過ごすことができました。もちろん自分の家ではないため様々な規則があり、友達と指導を受けたのも今では大切な経験であり思い出です。寮生活をすることによって規律だけでなく、人とのつながりを感じ、人間的に大きく成長することができました。私は寮に入って本当に良かったと思います。

就職を目指している在校生の皆さん。大事なのは、友達と一緒に楽しんで学校生活を送ることだと私は思います。私の場合は学校生活の思い出を就職試験の面接で聞かれました。体育大会や文化祭などでの協力は、思い出になるのと同時にプラスに働くと思います。ぜひ積極的に参加してみてください。

このたび、内定を頂き無事に卒業することができます。お世話になった諸先生方、先輩方、後輩達、そして同級生の皆さん、今まで本当にありがとうございました。

五年間の思い出

機械工学科　5年　**渡辺　卓実**

春の暖かな日差しを浴び、希望を胸に抱えつつ迎えた入学式。学校の広さと人の多さにおどろきながらどのようなクラスになるのだろうかと思いクラスに入った僕は思った。全員頭よさそう。――そして、僕は絶望することになる。まず授業時間の長さ。そして教科数の多さ。毎日が地獄のようで慣れるまでつらかった。学校の建物が視界に入るだけで激しい動悸、目まい、吐き気を催した。というのは言い過ぎだが１年の頃はほんとに学校がいやだったことを覚えている。しかし、そんなつまらない生活の中にも楽しいことはあった。例えば、部活動。バレーボール部は先輩も後輩も仲良く、一生懸命打ち込むことができた。またクラスのみんなともだんだん仲良くなり、少しずつ学校が楽しくなっていった。今思えば、５年間のうちの前半に勉強しなかったことが悔やまれる。基礎をしっかりしていれば４年の時もっと理解が早くて済んだのに…。でもまあなんだかんだで友達の助けもありなんとかやっていけた。最大の難関は、案外５年生だった気がする。それは卒業研究である。後輩の皆さまにアドバイスとしては、進路が決まったからと言って油断していると卒研が終わらなくて泣きます。

卒業生進路一覧

※（　）内は人数

福島高専専攻科（５名）　長岡技術科学大学（７名）　茨城大学（２名）
宇都宮大学（２名）　首都大学東京　いわき明星大学
㈱アトックス　アルパインマニュファクチャリング㈱　ＮＥＣフィールディング㈱
㈱エヌ・ティ・ティエムイー　岡野バルブ製造㈱　小名浜製錬㈱　キヤノン㈱　京セラ㈱
タカハタプレシジョン㈱　㈱テクモ　東海旅客鉄道㈱　東京エレクトロンＡＴ㈱
東京電力㈱（２名）　東北電力㈱　日進工具㈱　(独)日本原子力研究開発機構
日本原子力発電㈱　本田技研工業㈱　三菱原子燃料㈱　三菱重工業㈱　山崎製パン㈱
レンゴー㈱

DEPARTMENT OF ELECTRICAL ENGINEERING

電気工学科

3年間の担任を振り返って、電気工学科卒業生に送る言葉

電気工学科　5年担任　**山本　敏和**

平成20年始業式の日、留学生２名とともに初めて電気工学科３年の教室に向かい、私もクラスのメンバーも初対面の状態でスタートしました。少しずつクラスになじんで行きつつありましたが、前期には全く予期せぬ不幸があり、担任・クラス全員が大きな衝撃を受けました。その際には、校長先生、学生主事、教務主事、事務部長、低学年時の担任、学科、保健室、カウンセラーなど多数の方々による御配慮により、学生の心身のケアを頂きました事に心より感謝申し上げます。

この５年間には、勉学、生活、進路など大きな試練を経験した事と思いますが、クラスの学生の皆さんは心を強く持って、今卒業に至りました。これは、まず各人が頑張ってきた成果です。しかし、この５年間にご家族に支えられ、教職員、クラスや部活動のメンバーなど多くの人達から多くの援助を受けて来たのではないでしょうか。担任自身も、先の不幸、学校になじめない学生、気分が落ち込んでしまう学生と接した際には、多くの方々に助けて頂きまして大変有り難く感じております。

卒業生の皆さんは、これまでに培った知識、技術、生活の力を生かして更に向上を図り、他の方から頼られる人、社会に貢献する人になって下さる事と考え、大いに期待しています。今後のご発展と健康を心よりお祈り致します。

5年間を振り返って

電気工学科　5年　**佐久間　淳**

５年間を思い返すと、良くも悪くも色々な思い出がありました。そもそも電気工学科に入学しようとした理由は、中学時代に電力会社を見学したことでした。入学してみると授業のレベルが高く、「このままじゃ卒業が危ういー！」と思い必死に勉強したことが今でも懐かしく思えます。きっと私一人では卒業することはできなかったでしょう。先生方が親切で丁寧な授業をしてくれたこと、クラスメイトがみんな明るく楽しい人達だったことが大きかったと思います。

在校生の皆さんに伝えたいことは、自分の未来への明確なビジョンを持つことの大切さです。皆さんが、５年生になったら進学か就職か、どちらかを選ぶことになると思います。そこで自分が何をしたいかが分かっていないと、今自分が何をすべきなのかもわからないという状況になってしまいます。そうならないように、遅くても４年生、できれば３年生のうちから自分の将来について考えてみてはどうでしょうか。最後に、今までお世話になった先生方、家族、クラスメイトのみんな５年間本当にありがとうございました。

とある学生の高専生活

電気工学科　5年　**長塩　浩則**

早いもので、入学してからもう５年が経ちました。正直、勉強よりもギターを弾いていた時間のほうが多いのではないかという毎日でしたが、実験やレポートに追われながらもなんだかんだで充実した学生生活だったと思います。５年間を振り返ってみると、入学した頃からクラスの笑いのレベルが高すぎて腹筋が崩壊するくらい笑った記憶がほとんどで、とにかく楽しい毎日を送ることができました。最初からクライマックスの喜劇みたいな高専生活でした。これだけ楽しい学生生活が送れたのも高校１年生の年齢から５年間同じ友達と毎日を過ごす高専という特殊な環境だからこそなのではないかと思います。また、そんな生活の中でできた友達とは、これから先も長く付き合っていけるのではないかと思っています。

在校生の皆さんには、勉強ももちろん大切かと思いますが、一生付き合っていけるような友達をつくって楽しい毎日を送ってもらえればいいなと思います。

将来自分にとってかけがえのないものになるであろうこの学生生活を５年間ともに過ごした友達、指導してくださった先生方に本当に感謝しています。

ありがとうございました。

卒業生進路一覧

※（　）内は人数

福島高専専攻科（３名）　長岡技術科学大学（３名）　豊橋技術科学大学（４名）
東北大学（２名）　茨城大学　宇都宮大学　埼玉大学　東京工業大学
新潟大学　明治大学　日本工学院（２名）　赤門自動車整備大学校
アルパインマニュファクチャリング㈱　㈱エヌ・ティ・ティエムイー（２名）
㈱エムティーアンドエス　白河オリンパス㈱　ソニーエナジーデバイス㈱　東京電力㈱（３名）
東芝エレベータ㈱　東北電力㈱（３名）　富士通㈱　リコーテクノシステムズ㈱

物質工学科

卒業生に贈る言葉

物質工学科　5年担任　**青柳　克弘**

物質工学科第11回生の皆さん、卒業おめでとうございます。

前担任で顧問の鈴木三男先生から担任を引き継いで早３年が経とうとしております。今回で担任は３度目となりますが、こんなに手のかからないクラスは初めてでした。鈴木先生のご指導のおかげだと思っております。成績はいつも全25クラス中トップクラスで、生活指導で困ったこともほとんどありませんでした。日頃の掃除はもちろん、入試前や学期の終わりの教室整備等でも駆けつけた時にはすでにきれいに終わっているという状態でした。

そんな皆さんでも、就職・進学先を決める際には心配しました。特に就職は現在の超氷河期の中、どうなるのだろうと思いましたが、さすがに高専への追い風は強く、また、皆さんの努力もあって就職希望者14名全員の就職先が内定しています し、25名の進学希望者の進学先も決定しております。私は、個性豊かな皆さんがどのような人生を送っていくのか非常に楽しみです。成績の良い人でも安心してはいけません。世間は広いです。成績の悪い人は悲観してはいけません。これから頑張れば良いし、大いなる前途が広がっています。長い人生です。色々なことを乗り越えながら成長していくものだと思います。私は、皆さんと同じ年齢の頃に今の自分を想像できませんでした。あの小心者がいかに図々しくなったことか。

最後に、皆さんに私の好きな言葉を贈り、餞といたします。

「この道より我を生かす道なしこの道を歩く」

（武者小路実篤）

高専のことを思い出すことがあったら、是非、顔を出して下さい。話し相手ぐらいにはなれると思います。

卒業、いまはばたく瞬間（とき）

物質工学科　5年　**瓜田　裕之**

はじめて高専の満開の桜を見た日からはや５年の月日が流れ、時の流れのはやさを感じます。５年間を振り返ると本当に様々なことがありました。低学年の時は、毎日毎日部活に明け暮れ、白球を追いかけ続けました。誰よりも野球が好きな私だからこそ野球を言い訳にすることだけは許せなく、毎日練習が終わった後、夜遅くまで勉強しました。はじめは、勉強を続けることは大変でしたが、４年生になるころには自然と机に向かえるようになりました。その少しずつの積み重ねによって私の高専生活の大きな目標の１つであった編入学試験にも合格することができました。「一瞬の苦しみから逃げたら一生の後悔」。私の座右の銘です。高専での５年間は苦しいことがたくさんあります。しかし、その苦しみは人生の中では一瞬のことです。その苦しみを乗り越えてこそ自分の目標を達成できるのだと思います。今、世の中は不況や就職難で暗いニュースばかりが飛び交っています。しかしそんな時代だからこそ自分自身の不運を嘆くのではなく、自分自身の道を自分自身の力で切り開いていかなければならないのだと思います。私たちは今大きな一歩を踏み出します。

高専生活を振り返って

物質工学科　5年　**鈴木　誠也**

私が福島高専に入学し、早くも５年が経ちました。そして、私は専攻科に進学するので、この学校に７年間も在籍することとなります。小学校よりも長いですね。

この文章を読んでくれた皆さんに私が伝えたいのは、「自分の専門教科を好きになるということが一番大切である」ということです。皆さんの中には、ただ漠然と就職や進学が楽だからといった理由で、明確な目的がないまま入学した方も多いと思います。私も例外ではなく、何故化学を勉強しているのかと悩んだ時期がありました。勉強だけに限ったことではありませんが、苦手意識を持ち、自ら嫌いだと思い込むのは、間違いなく損です。きっかけは何でもいいので、自分の専門教科を好きになって下さい。そうすれば、過酷な定期テストや課題の山を乗り越えるためのパワーを得られると思います。

最後になりますが、皆さんの高専生活が楽しく、充実したものになることを祈っています。そして、これからも一緒に頑張っていきましょう。

卒業生進路一覧

※（　）内は人数

福島高専専攻科（４名）　長岡技術科学大学（３名）　豊橋技術科学大学（４名）
北海道大学　東北大学　筑波大学　宇都宮大学（２名）　東京農工大学（３名）
群馬大学　新潟大学　岐阜大学　神戸大学　山梨大学　昭和医療技術専門学校
アステラスファーマケミカルズ㈱　小名浜製錬㈱　堺化学工業㈱　㈱資生堂
東京アニリン染料製造㈱　東京電力㈱（２名）　東燃ゼネラル石油㈱　東北ニプロ製薬㈱
日東電工㈱　㈱半導体エネルギー研究所　富士フイルムファインケミカルズ㈱　日立化成工業㈱
和光純薬工業㈱

建設環境工学科

いわきに戻っておいでという誘惑

建設環境工学科　５年担任　**金子　研一**

世の中、就職氷河期というニュースが流れている。おそらく、君たちにとって無味乾燥な情報だったのではないだろうか。受ければ受かる。落ちても次がある。建設業に携われる君たちは幸せだ。税金が租庸調の時代、つまり律令国家の時代から公共事業が行われ、月面都市が造られる時代になっても建設業は営まれる。不況になればなるほど強い業種なのだ。ゼネコンからは脈々と募集があり、数年前までは採用を控えていた市や福島県からも募集が復活した。

国内の仕事は減るかもしれない。しかし、日本が一等国である限り、ＯＤＡ等海外での建設投資は減らすことができない。ＪＲへ就職した君も、電力に就職した君も新幹線を売りに、原子力発電所を売りにでかけることになるであろう。高専時代にＴＯＥＩＣをもっと勉強しておけば良かったと、そのときになって気づくのだ。

このような状況の中で、自分の実力で就職できたと思ったら大間違いだ。先輩たちの活躍があって、就職が良いのだ。今の学生は弱い。すぐ、会社を辞めることを考える。親も「いわきに戻っておいで。」と誘惑する。しかし、辞めたら最後、新たな就職先なんかありはしない。それこそ就職氷河期なのだ。

高専での５年間は長い。この生活があたりまえだと身についた者には新しい生活が軋轢の多い世界だと思う。馬鹿騒ぎをしていた仲間はいなく、地位は一番低い。かといって、社会にでて一人でやっていける能力も手段もない。もう戻ってくる場所がないことに気づき、そこに踏みとどまって欲しい。今、自分にとって何ができ、何が求められているのかを考え、そのなかでベストを尽くして欲しい。

卒業するにあたって

建設環境工学科　５年　**宇佐美貴宏**

高専に入学して、もう５年が経ってしまいました。本当に早いものです。この５年間、勉強、課題、レポート、部活などたくさんの思い出があります。また、友達、先輩、後輩、先生などたくさんの人との素晴らしい出会いがありました。そして今、私は「高専に入学して本当に良かった！」と思っています。そこで、在校生のみんなが卒業時に私と同じように思えるように、少しながらアドバイスをしておきます。

まず、２・３年生になるみんなは、高専生活にも慣れ、いろいろと調子に乗りたくなる年頃だと思います。その時は調子に乗っちゃってください。後々いい思い出となります。自分もそうでしたから。４・５年生になるみんなは、自分の一生を決める学年です。辛いとは思いますが、勉強を頑張ってください。努力はうそをつきません。結果はちゃんとついてきます。自分も定期テストや受験のために、今までの人生で一番勉強しました。また全体へのアドバイスとしては、デジカメの購入をお勧めします。日々の思い出を目に見える形で残せます。さあみんな！残りの高専生活、悔いを残さないように頑張って下さい！この５年間は、きっとみんなの生涯の中で大きな財産になると思いますよ。

５年間の高専生活について

建設環境工学科　５年　**久保木駿介**

私の５年間の高専生活で印象に残っていることは大きく分けると３つあります。

一つ目は、放課後の時間です。放課後はいろいろな遊びが生み出された時間です。教室卓球であったり、ホールサッカーであったり、毎日が楽しくて仕方ありませんでした。また、それで度々先生に怒られもしました。しかし、この経験は学生でしか味わうことができない貴重な思い出です。

二つ目は、磐陽祭についてです。これは私が初めてクラスの中心に立って行った仕事でした。私のクラスは２年連続ホットドックを販売しました。準備や当日の仕事が大変ですごく苦労しましたが、完売したときの感動は今でも忘れられません。

三つ目は、就職活動についてです。私の就職活動はたくさんの友人や先輩に支えられていた気がします。辛い時は励ましてくれたり、迷っているときはアドバイスをくれたりと、とても感謝しています。

最後に、４年生はたとえ周りが次々と内々定をもらったとしても気にせず、自分が本当にやりたい仕事を見つけて下さい。低学年の人たちは自分が得意なことを磨き、今後誰にも負けない長所として言えるように頑張ってください。

卒業生進路一覧

※（　）内は人数

福島高専専攻科（４名）　長岡技術科学大学（２名）　北海道大学　茨城大学（３名）
宇都宮大学（２名）　千葉大学　文化服装学院
石川島建材工業㈱　㈱エヌ・ティ・ティエムイー（３名）　エヌ・ティ・ティ・インフラネット㈱
関西保温工業㈱　(独)国立印刷局　㈱竹中土木　東海旅客鉄道㈱　東京電力㈱　東北電力㈱
西松建設㈱　日鉄パイプライン㈱　東日本高速道路㈱　三菱地所藤和コミュニティ㈱
宮地建設㈱　ライト工業㈱　いわき市役所　富岡町役場　福島県庁

コミュニケーション情報学科

卒業生に送る言葉

コミュニケーション情報学科　5年担任　**松江　俊一**

5年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

みなさんと一緒に私も3年間の担任も卒業となります。うれしいような悲しいような、何か中学を卒業したときの感覚が蘇ってきました。期待感と名残惜しさが混ざった感覚でしょうか。。。

さて、みなさんの卒業を祝して、いくつかの言葉を送りたいと思います。①食を大事にしてください。食事はできるだけ一人で食べないこと。そしてバランスの良い食事を心がけること。食事に時間をかけること。一人暮らしになるとどうしても食事に手を抜きがちになります。まして家事の経験が余りないみなさんのことですからなおさらです。食は全ての基本ですから！②不便を楽しむこと。世の中ますます便利になって行くことと思いますが、そのことに慣れ切ってしまわないように。便利なことばかりやっていると失うものも大きいですよ！不便を楽しもう！③仕事は3年頑張ろう。3年頑張れば、その業界のひと通りのことが理解できて、辛いと思っていた仕事にもやりがいを見い出せたりします。そして何よりも3年のキャリアが周囲から実績として見てもらえます。どんな仕事も何かの縁で獲得した仕事です。縁を大切に！そして更なる飛躍を！

それではみなさん、お元気で！

Bon-voyage！　ПоКа！

福島高専に編入学をして

コミュニケーション情報学科　5年　**田中　朝美**

卒業が近づくにつれて、2年前の編入学当初を思い出すようになりました。新しい生活に緊張する反面、期待を持っていました。高専で驚いた事は沢山ありました。1番の驚きは、トイレにある自動の水道と電気、エレベーターでした。部活動に入部し、部員は熱心だし、戸惑う私に接してくれて嬉しかったです。

大変だった事は、やはり勉強でした。平商業は普通科目が少ないので、基本すら分からない授業もありました。また、普通高校と高専の性格の違いに戸惑いました。今までと取り巻く環境が全く違うので、辛い時期もありました。今思うと、慣れるのに1年くらいかかったと思います。

高専の生活に慣れると、学校が楽しくなりました。手助けになってくれたのは、友達と先生方でした。私が編入学生で、他の学生と差がある分、皆さんとても気を使ってくれました。心から感謝しています。

私は、高専に来てよかったと思っています。良い教養を身につけられたことはもちろん、人間面でも成長できたと思います。沢山の人に触れて、自分はまだまだ小さいと思い知りました。

在校生の皆さんには、自分の恵まれている環境に感謝して、広い視野を持って学校生活を送ってほしいと思います。

福島高専で過ごした日々

コミュニケーション情報学科　5年　**永久保祐樹**

私が福島高専入学してから、間もなく5年の月日が流れようとしています。郡山市の中学校を卒業し、憧れだった高専での生活がスタートした日のことを今でも鮮明に覚えています。

今、5年間の高専生活を思い起こしてみますと、数々の思い出が浮かび上がってきます。毎日クタクタになるまで泳いだ部活の練習、同じ釜の飯を食った寮の仲間との日々、磐陽祭、学年行事など、語りつくせぬ思い出があふれる本校での生活でした。

本校には、学生に対して指導熱心な先生、深い学識をお持ちの先生、個性的な先生など様々な先生方がいらっしゃいます。先生方は、授業や課外活動を通して、学力向上や学生の成長に尽力して下さいました。私は、恵まれた環境で多くのことを学ぶことができたと思います。

そして、卒業という大きな転機を迎え、たいへん感慨深い気持ちでいっぱいです。今後の人生において、高専で学んだ日々というのはかけがえのないものであります。今、ここに先生方および友人たち、私を支えてくださった周囲の皆様に対して、感謝の言葉を述べて終わりにしたいと思います。大変有意義で、充実した高専生活を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

卒業生進路一覧

※（　）内は人数

福島高専専攻科（5名）　東北大学（5名）　山形大学　福島大学（2名）　宇都宮大学
埼玉大学　お茶の水女子大学　新潟大学（2名）　上智大学　千葉商科大学　文教大学
㈱秋元機工　会津商工信用組合　イクス㈱　いわき信用組合　㈱いわきテレワークセンター
㈱エヌ・ティ・ティ・データ　㈱サンフレックス永谷園　常磐興産㈱　㈱東邦銀行
トヨタカローラいわき㈱　磐梯リゾート開発㈱　東日本旅客鉄道㈱　山菱水産㈱　郵便事業㈱
いわき市役所　須賀川地方広域消防組合

祝 修了
機械・電気システム工学専攻

ともに活きた専攻科

機械・電気システム工学専攻長　鈴木　晴彦

機械・電気システム工学専攻２年生の諸君，専攻科修了おめでとう。全員が学位を取得し，そろって修了できたことを大変うれしく思います。

みなさんは大変優秀な成績で本科を卒業し、志高くこの専攻科へ進学されたと記憶しています。そして、その実力はあらゆる場で現れていたと思います。しかし、それは単に君たち個人の資質や素養が元々あったからではなくて、ここに集った専攻科の仲間によって、互いに育ち合うなかで現れていたのだと思います。また、高専の特徴かもしれませんが、教職員と学生の親しい関係が、君たちの「活きた専攻科生活」を創り出してきたのかもしれません。

ふり返れば、就職活動で始まった22年度でしたが、全員が希望する企業の内定を得ることができ、また進学を希望する者はその夢を叶えました。そして、学内では特別研究をまとめ、学外ではその成果を学会発表というかたちで示してきました。特に、君たちの中から国際会議に参加し発表した者が３名いること、全国レベルの学術表彰を受けた者がいることは、福島高専専攻科の存在を質実ともに世の中に知らしめるものであり、福島高専の専攻科研究が次の段階に移りつつあることを示しているものと感じています。

繰り返しますが、この発展的な自らの活動は、ひとりで成し遂げたものではなく、互いがいたことによって、「自分が活かされた結果だ」ということを忘れないでいただきたい。傍にいた友や師は、偶然でなく必要にしていたと感じてください。私自身も、君たちといたことで多くの事を学びました。楽しい２年間をありがとう。

福島高専での７年を終えて

機械・電気システム工学専攻　２年　齋藤　亮介

７年間過ごした高専も卒業となりました。振り返れば、３年前、新しい環境で研究したいという思いから大学編入を考えていた私は、部活動に熱中しすぎてその機会を逃すという苦い経験をしました。しかし、そんなとき先生から「まだチャンスはある」と励ましを頂き、専攻科への進学を決めたのでした。こんな経緯で進んだ専攻科ですが、気の合う仲間たちと過ごした２年間はとても楽しく充実した時間であり、また、念願の大学院への進学も決まりました。今ではこの進路にとても満足しています。

そんな私から後輩のみなさんに伝えたいことは、「チャンスは一度きりではない」ということです。一回機会を逃したとしてもチャンスはまたやってきます。大切な事は、次のチャンスを掴むためにいかに準備を整えるかです。そこで、進学を目指す人には実際に大学に行くことをお勧めします。大学の雰囲気を味わえ、また、先輩から受験の情報や勉強のヒントをもらうことができ、大きな助けとなります。是非とも大学に足を運んで、より多くの情報を集めて進路決定に活かしてください。

最後になりましたが、私を見守り支えてくださったみなさまへ、この場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

卒業生進路一覧　※（　）内は人数

東京大学大学院

小名浜製錬㈱　白河オリンパス㈱　㈱東芝　東京電力㈱（２名）　日新電機㈱

(独)日本原子力研究開発機構　日本原子力発電㈱　㈱日立製作所　富士通㈱

祝 修了
物質・環境システム工学専攻

新しいチャレンジを

物質・環境システム工学専攻長　山ノ内正司

専攻科修了おめでとう。授業にレポートに特別研究にそして発表会に、本当に頑張ったと思います。修了証書、学位記、ＪＡＢＥＥ修了証を手にする時の姿は、さぞかし達成感に満ちあふれていることでしょう。

この３年間、専攻長として専攻科の運営に携わってきたこともあり、専攻科生が構内を堂々と闊歩している姿を見て、とても頼もしく感じておりました。本科生に比べたら数の上では少数ですが、皆さんは、高専に求められている専門の高度化を推進する担い手でもあり、卒業研究や４年生の工学セミナーのノウハウの継承者でもあり、その存在と役割は大きいと思います。

40数年の歴史を刻んだ本科の学生として入学した皆さんですが、専攻科生としてはこれからの歴史をつくるフロンティアの立場です。皆さんが大学生とは一味違う活躍をしてくれることが、専攻科教育の真価を証明することになると思います。今の自分に満足することなく、前へ前へと新しいチャレンジをしてください。皆さんの活躍すべてが、巡り巡って母校専攻科の歴史をつくる血となり肉となるに違いありません。

昔私が学生だったとき、恩師の先生がよくおっしゃっていました。新しくできた学校が一人前になるのは、その卒業生が母校の教壇に立った時だ、と。いつの日にか専攻科修了生の中から母校の教壇に立つ人が現れることを願ってやみません。

７年間を通じて

物質・環境システム工学専攻　２年　齋藤早弥香

本科から専攻科まで、合計７年間という長い間この福島高専に在学してきて、振り返ると本当に沢山の方々に助けられてきたと思います。男子と女子の絶妙に不安定な人数バランスゆえかトラブルが起こりがちだった本科低学年の頃は、担任だった道上先生の白髪が年々増えていく様が痛々しかったのが印象的でした。今はお元気そうですが、次からは電気か機械の担任になることができるよう祈っています。

専攻科に入学してからは、担任の山ノ内先生をはじめ今まで接点のなかった他学科の先生方にも大変お世話になりました。慣れた環境の中で今まで関わりのなかった他学科の先生方の知識を享受できる専攻科での授業は、とても有意義なものでした。ありがとうございました。こうして専攻科修了といういわばゴール地点に立つことができたのは、上述した諸先生方の他、梅澤先生をはじめ青柳先生や羽切先生など常に温かく見守って下さり時に助言や叱咤激励を与えて下さった物質工学科の先生方がいらっしゃったからだと思います。長年在籍してきましたが、やっと卒業を迎えます。今まで７年という長い間、大変お世話になりました。

卒業生進路一覧　※（　）内は人数

長岡技術科学大学大学院

㈱一条工務店　㈱エヌ・ティ・ティエムイー　サントリープロダクツ㈱

常磐共同火力㈱　相互製薬㈱　㈱山武　いわき市役所

祝 修了
ビジネス コミュニケーション学 専攻

自信をもって！

ビジネスコミュニケーション学専攻長　**坪井　晋也**

専攻科修了、本当におめでとうございます。

専攻科での２年間、定期的な発表会や報告書類等にくわえて、学位取得のための「機構への学位授与申請」、そのための試験勉強、結果として全員審査合格と、とても過密なスケジュールのなか、よくがんばって結果を残されたとおもいます。

さらに、今後の進路についても、マスコミで大きく取り上げられ、社会問題にもなっている「超就職氷河期」といわれるなか、５名全員希望通り、２名が公務員上級職に合格、１名が東証一部上場企業に内定、さらに進学を希望していた残り２名についても、それぞれ、関東に位置する国立大学大学院、留学先としてのオーストラリアの大学院へと、進むこととなっていて、この面に関しても、よくがんばって結果を残されました。

これから先においても、様々な困難が待ち受けているとおもわれますが、この専攻科での２年間のがんばりを糧に、ぜひ、自信をもって、何事にも立ち向かっていってほしいとおもいます。

『生き方』を教えてくれた場所

ビジネスコミュニケーション学専攻　２年　**三浦　輔**

「高専生活」、それは「青春」と同義でした。卒業が近づき、研究をはじめとする学習活動、仲間と力を合わせた学校行事、先生方や友人たちとの語らいなどその一つ一つが昨日のことのように思い返される思いです。それらは決して忘れることのできない大切な思い出です。

７年間という決して短くない時間を高専という学び舎で過ごし、数多くのことを学んできました。激動の高専生活は授業だけでない「生き方」を学ぶ場でもあったと思います。その「生き方」をこれからの人生でプラスに活かすことが自分の課題であり、また、高専でお世話になった方々への感謝につながると思っています。

未熟な自分が困難にぶち当たるたびに支えてくれたのは先生方や友人たちであり、その支えがなくては今の自分はあり得ず、そのことへの感謝の気持ちはとても言葉では言い表せません。

これから私は巣立ちを迎え、新たな生活への一歩を踏み出します。高専は、自分の人生にとってかけがえのない思い出をくれた大切な場所であり、「生き方」を示してくれた場所でもあります。それらを胸にこれからの人生を歩んでいきたいと思います。

卒業生進路一覧　※（　）内は人数

千葉大学大学院
堺化学工業㈱
いわき市役所　中央区役所

学生会

学生会活動を振り返って

学生会長　電気工学科　５年　**吉田　章大**

学生会として私は４年生の時から２年間会計および学生会長として活動を行ってきました。

今年度、学生会では学生総会の開催、募金活動、学生交流会、部活動予算案の考案など様々な活動を行ってきました。特に、部活動予算案については初めての試みでしたのでいろいろな意見があり学生生活をよりよいものとしようとする意思が表れ、非常に良かったと思います。また、毎年開催されている東北高専交流会ならびに全国高専交流会では各高専の提示した課題について活発な意見交換がなされ、どの高専にとってもこれからの学校生活のためになるものだったと思われます。今後はこういった活動を数多く積極的に行い高専間の交流が深まっていって欲しいです。私はこのように学生会の活動をおこなってきましたが組織を統率するのは初めてでした。今回、この学生会活動を通じて、組織をまとめる大変さ、人間関係の大切さなど様々なことを学ぶことができました。来年度からは社会人となる私にとってこの経験はこれから必ず役立つものとなりました。これもひとえにみなさんの支えがあってこそです！

１年間、学生会を支えてくださった諸先生方、学生課ならびに全学生の皆さん、本当にありがとうございました！

平成22年度卒業生・修了生の進路状況

進路対策委員長　**山田　貴浩**

今年度の就職に関しては、報道等でも伝えられているように厳しいものとなりました。大学生でも内定を得にくい状況で、本校への求人も昨年度より減少しました。そのような中でも、今年度、550社から1,473名の求人が寄せられ、倍率は16.7倍（昨年度は19.1倍）と、大学に比べると高くなっています。

本科から専攻科や大学への進学については、ここ最近の傾向として半数近い学生が希望するという状況が続いています。２月末の時点で、本校専攻科に定員を上回る25名の学生の進学が決まっているほか、大学に約90名の学生の進学が決まっています。専攻科からの進学では、４名の学生が国立大学の大学院への進学を決めています。

最近の就職活動の問題として、活動期間の早期化・長期化があります。本校では学校からの推薦が多いため大学生ほどの厳しさではないものの、就職活動に多くのエネルギーを使い疲れきってしまう学生も少なくないようです。この問題を解消するため、文部科学省から企業団体へ改善を依頼しています。本校では、女子総合支援室の活動の一環で、週に３日、キャリアカウンセラーに来ていただき、学生からの相談に乗っていただいています。

また、企業側の求人と学生の希望とのミスマッチという問題もあります。地元企業が学生を求めても、地元以外への就職を希望する学生が多くなっています。この対策として、福島高専協力会の企業を中心に、春には５年生、秋には４年生を対象とした企業説明会を開催しました。地元企業について学生に良く知ってもらえたのではないかと思います。

現４年生を対象とした求人も始まっています。情報収集・自己分析など、しっかりとした対策をとって、希望する進路を決められることを願っています。

卒業生の進路（平成23年３月卒業）

（　）は女子学生

区分	機械工学科	電気工学科	物質工学科	建設環境工学科	コミ情学科	計
卒業者数	41(1)	35(1)	39(16)	34(10)	40(26)	189(54)
進学者数	18(0)	18(1)	24(5)	13(2)	21(13)	94(21)
就職者数	21(1)	14(0)	14(11)	20(7)	16(11)	85(30)
その他	2(0)	3(0)	1(0)	1(1)	3(2)	10(3)

専攻科生の進路（平成23年３月修了）

（　）は女子学生

区分	機械・電気システム工学専攻	物質・環境システム工学専攻	ビジネスコミュニケーション学専攻	計
卒業者数	11(0)	8(5)	5(3)	24(8)
進学者数	1(0)	1(0)	1(0)	3(0)
就職者数	10(0)	7(5)	3(2)	20(7)
その他	0(0)	0(0)	1(1)	1(1)

先輩達から後輩の皆さんへ進路についてアドバイスをいただきました。

進学

機械工学科　５年　馬場　将亮

私は長岡技術科学大学に進学します。昨年進学する学校を決めた際に感じたことは、志望している学校がどういう学校だか分らない漠然とした不安でした。確かにパンフレットや色々な資料を見れば表面上分ったような気がします。でも、実際に学校に行ってみたらこんなはずじゃなかったと思うこともあると思います。そこで、私は先輩や先生に何度も長岡に連れて行って頂き、学校内の色々な研究室やたくさんの長岡技術科学大学の在学生の方と知り合いになりました。そのため向こうに行くと、どういった授業があって、何が大変なのかといったことが分かって不安もなくなりました。進学する際はパンフレットや資料だけに頼らず実際に学校を訪れて、色々な人の話を聞く事が大切だと思います。

就職

電気工学科　５年　平子　祥兵

近年就職難が続き、在校生の皆さんは将来に不安も多いかと思います。そんな中皆さんはどういった基準で会社を選ぼうとしているでしょう？今のところは漠然としている方も多いのではないでしょうか。私の場合、大企業に勤めることがいいことだという一種の固定概念が芽生えていて、大企業を中心に探していました。それが正しいかどうかは人それぞれですから賛否両論ですが、今振り返ってみると、もう少し色々と理解した上で就職活動に臨んでいても良かったなと思います。自分の人生は１回限りで、その人生に責任が取れるのは自分自身だけです。貴重な人生を台無しにするような会社選びをしてはいけません。妥協せず、自分に正直に、やりたい業界でやりたいことを実現してほしいと思います。

就職

物質工学科　５年　庄子　沙織

私は、インターンシップに行った企業に就職をします。インターンシップを通して、「この企業で働くということ」が具体的にわかり、その上で「この企業で働きたい」と思えたからです。就職先を決めるときは、自分が働いている姿を想像し、企業の雰囲気や勤務形態など、望む環境を考えると絞りやすくなります。就職活動中は面接が不安でしたが、先生や友人に練習をしてもらい、一次面接を無事終えたことで、面接で一番大切なことは会話であるとわかりました。企業についての情報収集や基本的な受け答えの準備はもちろんですが、自分をいかにアピールできるかが大きいと思います。みなさんの就職活動がうまくいくよう祈っています。

進学

建設環境工学科　５年　根本　真緒

進学を考えている皆さんへ、編入試験に向けて大事だと思った事をアドバイスさせて頂きます。それは早い段階から情報を収集する事です。試験勉強をすることは勿論大切ですが、その前にどの大学を受験するかで悩む方が多いと思います。大学のホームページ等でシラバスを見る・学科の特徴を掴む、自分がやりたい研究を行っている研究室を探すといった他にも、大学で開催されている学科説明会に足を運び大学の雰囲気を掴むことが重要だと感じました。私は実際に４月に千葉大学に行き、学科説明会に参加しました。大学で学べる授業内容や研究室について詳しく知れるだけでなく、他の高専生も多く集まるので試験へのモチベーションを高めることにも繋がりました。それでは、頑張ってください。

進学

コミュニケーション情報学科　５年　三瓶　未佳

編入試験をとおして感じたことは、メリハリの重要性でした。

私の場合、高専で得た知識とは異なる科目を受験するため、一から勉強しなくてはなりませんでした。その大学へ入る自信がなかった私にとって、はっきり言って一から勉強するということは苦痛でした。そのため私は遊ぶときは遊ぶ、勉強するときは勉強すると、はっきり一線を引いた生活をし、ストレスを溜めないよう、勉強に励みました。そのおかげか、勉強を投げ出すことなく、必要な知識を獲得でき、絶対に入れることはないと思っていた大学に編入することができました。

勉強が苦痛になることは誰にでも起きることだと思うので、うまくそれを回避することが大事だと思います。みなさんもペースを作ってコツコツと努力してください。みなさんも希望が叶いますように。

就職

ビジネスコミュニケーション学専攻　斎藤　健

私は、いわき市役所の上級行政職に内定を頂きました。私が就職活動で最も大切だと思うことは、「揺るぎない目標を持つ」ことです。

私の場合、本科４年のインターンシップをきっかけに公務員になりたいと考え、専攻科に内定をいただいた５年の夏休みから、塾に通い勉強を始めました。逆境にもぶつかりましたが、公務員になるという気持ちを曲げずに勉強を続けました。

明確な目標を持っていれば、業界について調べるときも、勉強するときも、自然とやる気が起きます。また、その業界で働くために、自分は今何をすべきか、ということも、意欲を持って考えられると思います。

卒業生紹介

本校を卒業し、それぞれ就職・進学した先輩にアドバイスをいただきました。

研究室交流会後に銀閣寺で
研究室同期と

進学者紹介

平成19年３月　物質工学科卒業
平成21年３月　物質・環境システム工学専攻卒業

生田目　昂

進路って、誰でも悩みますよね？私も悩みました。

私は、物質工学科を卒業した後、専攻科物質・環境システム工学専攻を修了して、現在、東京工業大学大学院総合理工学研究科物質電子化学専攻の修士課程１年目です。

大学院進学を考えたのは、研究職に就きたかったからです。高専生の就職状況は非常に良く、多くの人は工場での製造や品質管理の仕事に就きます。物質工学科の同級生もそのようです。一方で、開発職や研究職に就くのは大学生か大学院生がほとんどなので、進学するなら大学院まで行こうと決めていました。正直なところ、大学院に合格できる自信はありませんでした。物質工学科での成績はクラスで半分くらいでしたし、決して褒められた学生ではなかったと思います。それでも進学を選んだのは、先輩や先生の影響です。優秀な先輩がいて、その何倍も高い所に先生方がいる。自分もそのようになりたいと思いました。そして目指す方向が明確になりました。

今までどんな人と接してきたか、これは人生で重要なことだと思います。なるべく多くの人に会って、その人が何を考えて、何を大切にしているのかを知ると、進路も見えてくるかもしれません。

教授の還暦祝いで

就職者紹介

平成19年３月　機械工学科卒業　**高松　拓也**

私は現在、堺化学工業株式会社で働いており、仕事内容は工場で稼働しいている機械のメンテナンス、修理業務になります。

この仕事では学校で勉強した内容が基礎の知識として役に立っており、勉強していた際には本当に必要になるのかと疑問に思っていたことでも仕事をしていく上では必要な場面が出てきました。

図面もほとんどがＣＡＤに変わってきており、進化していく最先端の技術も学んでいけば卒業した後も十分に役に立ってくれると思います。

今でも私は日々勉強ですが、皆さんには在学中に各分野の基礎を学んで自分のものにできるように頑張ってください。

第2回　磐陽祭

愛し愛され磐陽祭　～君がいなきゃ 2010 ～

磐陽祭を終えて

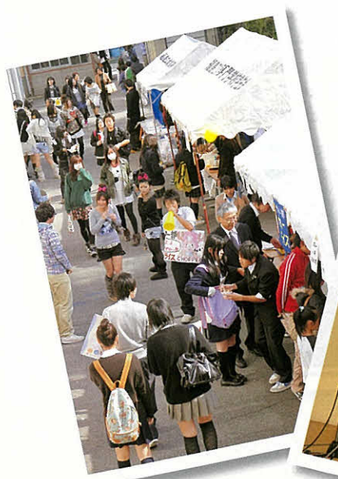
磐陽祭実行委員長　物質工学科　４年　**春日　政人**

平成22年度磐陽祭にご来場いただいた方々、また、磐陽祭を開催するにあたり、ご支援・ご協力をいただいた地域住民や地域企業の皆様方、本当にありがとうございました。無事に磐陽祭を開催することができたのも皆様方のおかげと感謝しております。

今年度の磐陽祭のテーマは「愛し愛され磐陽祭～君がいなきゃ 2010 ～」でした。多くの人の愛が詰まった今回の磐陽祭では、ご来場いただいた方々にもその愛を与え、皆様を笑顔にすることができたことと思います。

また、今年度の磐陽祭では新たな取り組みとして、プロのシンガーソングライターである保田晃秀さんにお越しいただき、ライブを開催しました。プロの方の歌声を聴くことができる機会ができて、今までとは一味違った磐陽祭になったと思います。

「高専祭」から「磐陽祭」へと名前が変わってから２回目となった今回の磐陽祭では、磐陽祭が多くの方々に支えられていることを実感できました。これからも磐陽祭がより素晴らしいものになるように、学生一同精一杯努力していきますので、今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いします。



学年・学科行事

1・2年

建設環境工学科　1年　高杉　凌平

10月28日に行われたスポーツ交流会。僕達が唯一望みをかけたソフトボールも、秋山先生の予報が見事に当たり、雨で中止になりました。そのせいで僕達のクラスは少し落ち込んでいましたが、すぐにバスケットボールとドッジボールが始まろうとしていたので、気持ちを切り替えました。しかしバスケットボールはすぐに負け、ドッジボールは惜しい所までいったものの、総合順位では上位になれませんでした。競技成績は残せなかったものの、クラスの絆は今まで以上に高まり、また、他のクラスとの交流もこれを機に増えました。最後に、みんなの最高の笑顔が撮れて良かったです。

コミュニケーション情報学科　1年　高橋　和希

僕は今回の学年行事を通して、スポーツの良さを改めて気付かされました。

僕自身、バスケとドッヂボール両方の競技に参加しましたが、どちらの競技でも怪我をしてしまいました。しかし、試合の最後に感じたのは、怪我の痛みではなく、試合に勝った喜びでした。

いつも一緒にいる友達の違った一面や、怪我をした時に気遣ってくれる優しさ、スポーツを通して他学科との交流を深めたり、試合に勝った喜びや悔しさを共感出来るのは、スポーツ大会だからこそだと思います。

また、このような機会をもち、他学科や友達との交流をさらに増やせたらいいと思います。

機械工学科　2年　乙山　克彦

私たちは学年行事日に那須に施設見学、自然探索に出かけました。那須ハイランドパークではあいにく雨に降られ、少し残念でしたが、アトラクションを思いっきり楽しむことが出来、とても楽しい思い出が出来ました。今回の学年行事では、日ごろなかなか一緒に行動できない級友や、他の学科の仲間とのコミュニケーションの機会が与えられ、共にその思い出を分かち合い、友情の輪を広げることができたように思います。この学年行事はとても有意義なものになりました。

電気工学科　2年　五十嵐　礼

今年私達２年生は栃木県にある那須ハイランドパークへと行きました。学科学年行事日といえば、工学系の施設などを見に行くものかと思っていましたが、予想外の行き先でした。当日はあいにくの雨でしたが、私達はバスに乗っている時からわくわくしていました。園内は非常に寒かったのですが、私は友達と一緒に遊園地に行くというのははじめてのことだったのでまったく気にならず、多くのアトラクションに乗り楽しみました。とても楽しかった見学学習で、よい思い出となりました。

3年

機械工学科　3年　中藤　夏海

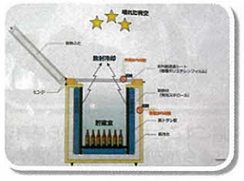
10月28・29日の日程で、私たちは、「壬生町おもちゃ博物館」、「森永製菓株式会社　小山工場」、「株式会社日産自動車　追浜工場」に行きました。私は、特に「森永製菓」に感銘を受けました。物凄い速さでお菓子を製造し梱包する、たくさんの自動機に感動したのは言うまでもありません。それ以上に、厳重な衛生・品質管理、そして作業スタッフ一人一人が大きな責任感とユーモアあふれる遊び心とともに仕事をしていたことに驚きを覚えました。４年生になるとインターンシップもあるので、今回の経験を活かせればいいなと思います。

電気工学科　3年　渡辺　亮

私たちは学年行事日で会津若松の柳津地熱発電所と上田水力ダム発電所に行ってきました。まず地熱発電所を見学しました。この地熱発電所は日本で最大発電量を誇り，見学時は，点検期間であったため発電機モーターは動いていない状況を見ることが出来ました。また硫黄を分解し，脱臭する最新設備もあり，とても興味深いものでした。

水力ダム発電所では，ダムの中央の上部に制御盤の建物と、その５階程下にある発電機モーターを至近で見学することが出来ました。２箇所の見学とも，とても貴重な体験でした。

物質工学科　3年　花角　優太



今回の学年行事日で私は那須にある非電化工房に訪れました。そこは電気に頼らずに電気があるような生活を実現するという、この時代には珍しいところです。例えば、私達が普段使用している冷蔵庫。電気を使わずに、天気予報でよくきく放射冷却によって実現してしまっているのです。

この冷蔵庫を実現しているのは、主に私達が勉強している熱力学という分野によるものです。今自分が勉強している内容でこのようなことができるというのは、とても興味深いことだと思います。非電化という「あえて」に挑戦することが新たな技術を生むのだろうと思いました。

建設環境工学科　3年　佐藤　淳哉

隅田川橋梁見学では、橋を下から間近で見るという体験をし、橋の工法が橋の長さや場所によって違うという事が勉強になりました。

次に見学した国道16号町田立体上部工事現場は、実際に現場に入る事ができました。そこでは、地上で橋桁を作成した後、機械でそれを引き上げるという工法が採用されており、500トンもの橋桁を誤差なく引き上げる技術に驚きました。

コミュニケーション情報学科　3年　庄司　純子

私たち３コミは、１日目に日本銀行、２日目に東京証券取引所とロッテの狭山工場に行きました。

その中でも、東証のマーケットセンター上部にある電光掲示板は取引の状況に応じて、掲示板に表示される文字が８段階の速さで絶え間なく表示されていたことが特に印象的でした。また、施設見学や講義を通して、東証が日本経済の中枢を担っていることを改めて認識するとともにより深く理解することができました。

これらの体験を通して、クラスの絆や交流を深めることができ、とても有意義な２日間でした。

4年

機械工学科　4年　**菅家　麻美**

私のクラスは学年学科行事日にＪＡＬを見学しました.

私はそれまで飛行機に特別深い興味はありませんでしたが，今回の工場見学はとても楽しむことができました．今まで“飛行機”と聞いても，漠然と“空を飛ぶもの”としか思いませんでした．しかし，大小さまざまな部品がリベットで組み立てられているのを見て，飛行機も人の手によって作られていることを改めて実感し，感動しました．高専を卒業したら，このように工場などを見学する機会はほとんどなくなると思いますが，在学中にこのような貴重な経験をできたことを将来生かせるようにしたいです.

電気工学科　4年　**大平　悠介**

今回の学年行事日は、つい昨日のことのように思えるくらい本当に楽しかったです。僕たちは28日に日立製作所、カシマサッカーミュージアム、29日に富士通川崎工場、東芝科学館を見学しました。どの会社も人間の都合だけでなく、周囲の環境や地球のことまで考慮していることを感じました。人類の英知のすごさ、技術のすばらしさを感じ、まだまだ未来は輝かしい可能性に満ちていると大変感動しました。また、自分がまだどれだけ狭い世界しか知らないのか実感し、自分には将来何ができるのか楽しみに思えました。考え方は会社によってそれぞれでしたが、簡単には口にできないながら「目指す場所は世界一」と力強く発言する企業の人から強い意志、使命感を感じ、僕はそんな言葉にインスパイアーされました。

最後に、このような素晴らしい学年行事を実行していただいた担任の先生をはじめ、見学させていただいた企業の方、また関わっていただいた皆様方に感謝したいです。

物質工学科　4年　**関口　倫子**

10月の雨降りしきる中、私達は学科行事である１泊２日の体験学習に行って来ました。見学先は日立ハイテクノロジーズ、富士通、昭和電工、そして私たちの先輩が何人も進学している東京工業大学でした。４年生ともなると、企業も大学も自分たちの将来に大きく関わってくる現場なので、見学ではクラスメイトたちの目にも真剣さが感じられました。

また、日頃同じ教室で同じ時を過ごしている私達ですが、この４度目の体験学習を通してより一層、お互いの絆を深めることができたと思います。多くの皆様にお世話いただいて、楽しいときを過ごすことができ、心から感謝しています。来年は最後の学年行事です。今から楽しみにしています。

建設環境工学科　4年　**長谷川　綾**

私たち４年建設環境工学科は東京・横浜方面で東京スカイツリー工事現場、東京港臨海道路建設現場、首都高速道路横浜環状北線建設現場を見学してきました。実際に現場を見学することで、最先端の技術を直接見ることができました。また、働いている方々の姿を見て、「働くということはどういうことなのか」という授業では学ぶことのできないことを肌で感じることができ、将来を考える上での大切なものを得ることができました。

たくさんのことを学び、友達と楽しい思い出を残すことができて、とても充実した学年・学科行事となりました。

コミュニケーション情報学科　4年　**安島　恵理**

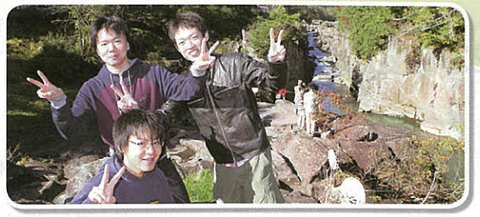
私たちは学年行事日に東京証券取引所と日本銀行に行きました。

東証では、株価や株式についての説明を受け、その後社員が管理業務を行うマーケットセンターで取引が成立した株価が回っているチッカーなどを見せてもらいました。

日銀では、旧館を見学しました。中でも、６年前まで108年間使われていた地下金庫が強く印象に残りました。

２日目の企業・大学見学では、“キリスト教に基づく教育”をうたっている立教大学に行きました。文化祭の準備をしていてとても賑わっていました。ツタに覆われた赤レンガ校舎は綺麗でした。

5年



機械工学科　5年　**馬場　将亮**

機械工学科５年生は岩手方面に行ってきました。まず、私たちは中尊寺金色堂を訪れました。金色堂はとてもきれいで、柱や梁にまでいろいろな模様が彫りこまれ、宝石がちりばめてありました。細部にまで工夫を凝らされた装飾は、見るものを引き込むような魅力があり、そこに平安時代の職人のものづくりに対する情熱を感じました。２日目は厳美渓を散策しました。卒業研究などで忙しく、普段は機械やパソコンのディスプレイしか見ていないので良い気分転換になり、また、自然の造形美に触れることで新たな感性を養う事が出来たと思います。今回の学年行事日は学ぶことも多く、５年間の高専生活の良い思い出になりました。

電気工学科　5年　**鈴木　将敬**

今回の学科・学年行事日で私たち電気工学科５年の一同は１日目に日光東照宮を見学し、鬼怒川観光ホテルに宿泊しました。日光東照宮では装飾や絵の精緻さに驚かされました。そしてその日の夜にはクラスメイトたちと共に、雨の降り続ける中での露天風呂を堪能しました。

２日目には、那須ハイランドパークのアトラクションを楽しみました。ほとんどのクラスメイトが数種類ある絶叫系のマシンを楽しんだようでした。これが私たちの最後の学科・学年行事です。これからバラバラになってしまう私たちにとって、忘れがたい思い出になったと思います。

物質工学科　5年　**藤田　将史**

今年はクラスでの「旅行」という色が強かったと感じた。

初日はゆば工場の見学・体験に始まり、日光東照宮見学（鳴き龍が気に入った）、いろは坂を抜けての中禅寺湖。２日目は牧場で動物と触れ合い、アウトレットで皆と買い物をした。初日に雨が降っていなければもっと良かったと思うのだが、天気はいかんともしがたいものであるから仕方ないと思うしかなかった。

５年間の中でおそらく一番羽根を伸ばした気がする。二番目は横浜。

過ぎてからは、やはり早かったと感じる５年間であったが、思い出としてこれらが残ったことを嬉しく思う。

建設環境工学科　5年　**薄井　　瞳**

私たちは、群馬県と長野県に行き、八ツ場ダム、草津温泉などをめぐってきました。各所素晴らしかったですが、特に印象に残ったのは、浅間山の壮大な風景です。大きな岩の塊が無限にあり、大変驚きました。また、夜はゆっくりと温泉につかり、１日の疲れを癒しました。宴会では仲間の一発芸や、先生の華麗な踊りも見ることができ、皆で大笑いしました。気心知れた友人達と行動を共にしながら、私は皆のことを改めていい仲間だと感じていました。高専生活最後の学年行事は、５年間一緒に過ごした仲間の大切さを実感できた旅になりました。

コミュニケーション情報学科　5年　**折笠　芽伊・鈴木　晴奈**

私たちにとって最後の学年行事日は、地元いわき市で過ごしました。

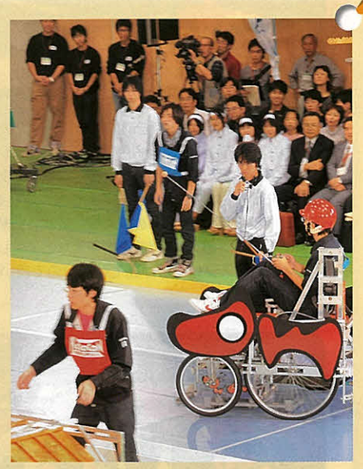
１日目は、四倉にある海浜自然の家に行きました。そこで皆でバーベキューをして楽しみました。

食材を切るところから始め、薪で火をおこし、肉や焼きそば、盛り沢山の野菜を食べました。

２日目は学校で過ごしこれからのキャリアプランを練りました。受験組は合わせて受験勉強に取り組みました。昼食には松江先生が丹精こめて作って下さったトマトパスタと白菜スープを皆で頂きました。２日間とも食事がとても美味しかったです。受験を控えている皆にとってもリフレッシュとなり良かったと思います。

22年度の高専ロボコン ロボットコンテスト

指導教員　物質工学科　天野　仁司



22年度のロボットは、本校体育館での最速記録では、Aチームが49秒、Bチームが53秒でゴールできました。これは、優勝を狙えるタイムです。しかし、大会は練習とは別世界です。

Aチームは、一回戦において、ギヤの歯が一箇所つぶれ、方向転換できない状態になりました。急遽交換作業を行いましたが、二回戦までに不良部品の交換が間に合わず、本来の性能を発揮できずに敗退しました。

Bチームは、練習時間が十分とは言えず、改良可能な部分が多数残っていたと思います。そのため、二回戦ではゴールのタイムで敗退しました。なお、Bチームは「デザイン賞」を受賞しています。

最近の学生は、技術の習得と実現の意欲、チャレンジ精神、それに統率力が足りないようです。勝負が気になり、目標が低い。これではよい成績を残せません。震災により１年延期となりましたが、24年度は、いわきで大会が開催されます。焦らずに最高のロボットを作って欲しいと願っています。

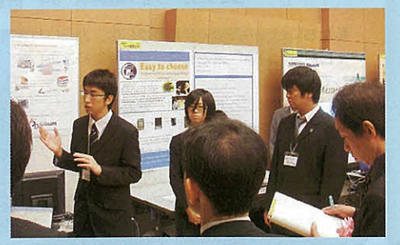
第21回プログラミング コンテストに参加して

指導教員　コミュニケーション情報学科　島村　浩

「日本を今一度せんたくいたし申し候事にいたすべくとの神願にて候」と言った坂本竜馬。今年の第21回プログラミングコンテストは、龍馬生誕の地、高知で開催されました。

本校からは、課題部門１チーム５名、競技部門１チーム３名、小泉先生と私の引率で参加しました。課題部門は、ウェブカメラと小型プロジェクタを使用した、電子アルバムのシステムでした。人間の手の動作を読み取って動かすのが、なかなか難しくて苦労した点です。審査の先生方からの質問にもよく答えることができ、敢闘賞を頂けました。

今年の競技部門は、地元四国の溜池に因み、水を撒いて、自分の陣地を獲得する陣取りゲームでした。各チームの動きが大型ディスプレイに表示され、観客へのアピールは大きかったと思います。残念ながら、２回戦へは進むことができませんでした。

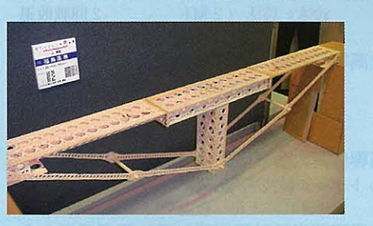


来年度は、開催地が東北へ戻ってきます。一関での開催です。他の東北地区の高専と一緒に、良い成績が残せるよう頑張ります。応援よろしくお願いいたします。

「デザコン2010 in 八戸」に参加して

指導教員　建設環境工学科　緑川　猛彦・根岸　嘉和

2010年11月13日，14日にデザコン2010 in 八戸が開催されました。今年度のデザコンは第７回目であり，青森県の八戸高専が主管校で「もったいない」がメインテーマでした。競技部門である，構造デザイン，環境デザイン，空間デザイン，ものづくりの４部門のうち，構造デザイン，環境デザインおよび空間デザインに応募し，構造デザイン部門で本戦出場となりました。



今年度の構造デザイン部門のテーマは「どこでもブリッジ」で，地震や災害等の緊急時や橋を必要とする世界の地域において，いつでもどこでも簡単に持ち運びができ，現地で簡単に組み立てることができる仮設の橋でした。支間1,000mmの両端を固定しない単純支持形式の構造体を，檜材を用いて総重量300g以内に３分割して製作し，組立て易さ，耐荷能力およびデザインを競うものです。僅か300gの橋を８分以内で組み立て，240kgの重量に耐えることができたチームが２つもあり，レベルの高さを感じさせる大会でした。

専攻科生を含む全52チームが出場した中，本校は「D. B. ドットブリッジ」（江尻義史，猪狩一哉，志賀　暢，渡辺一樹，渡辺　直，大竹剛史）でエントリーし，総合順位32位の成績でした。

今年度のテーマでは，橋を３分割して製作し，現地で素早く組み立てる必要があったことから，力学的な観点と共に施工性を両立しなければならず大変難しい大会でした。校外実習の合間を縫って作品作りに励み大変ご苦労様でした。

環境デザイン部門と空間デザイン部門へのエントリーチームは以下の通りです。

環境デザイン部門

「賢沼再生プロジェクト　富栄養化した沼の水質改善と環境制御による環境維持活動の試み」市井雅伸，北　広心，佐藤智彦，佐藤良太，内田修司（顧問）

空間デザイン部門

「風の吹き抜ける家，光が差し込む家」圓山　亮，齊藤充弘（顧問）

「サンシャインいわきのエコロジカル次世代ハウス」加藤湧亮，齊藤充弘（顧問）

「浜風吹く風と光の空間」佐藤恭平，齊藤充弘（顧問）

「温泉を活用した住空間づくり」石井侑希，齊藤充弘（顧問）

全国高専　英語プレゼンテーション コンテスト（スピーチの部）優勝

指導教員　一般教科　石原　万里

コミュニケーション情報学科２年目黒茜さんが、１月29、30の両日に国立オリンピック記念青少年総合センターで行なわれた「第四回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」のスピーチの部で優勝しました。

スピーチタイトルは、「Changing Ourselves to Be Ready for Globalization」です。教師に対し対等に意見を言うアメリカ人学生のなかで、最初は戸惑いを感じていた目黒さんは、第二次世界大戦をテーマにした授業で、自分の考えを率直に伝えることの大切さを学びます。その経験を踏まえて、日本人が国際化に対応するために、英語でディベートする力を身につけるべきだとまとめました。eye contactを取りながらの自然な発表は高い評価を得ました。

目黒さんは何度もスクリプトを書き換え、本校の外国人講師のキャシー先生に発音を聞いていただき、練習を繰り返し、見事に優勝を手にしました。

体　育　部

◎平成22年度福島県高等学校新人体育大会 県大会

■陸上競技

走幅跳	吉田　将大（２Ｋ）	第７位

■バレーボール（男子）　２回戦敗退

１回戦	高専２－０ 安積高校	
２回戦	高専０－２ 大沼高校	

■ソフトテニス（男子）

団体戦		３回戦敗退
個人戦	佐藤　伸耶（１Ｅ）	
	大和田　嵩（１Ｋ）	２回戦敗退
〃	柴田　直樹（２Ｅ）	
	遠藤　佑哉（２Ｃ）	１回戦敗退

■テニス（男子）

学校対抗		２回戦敗退
個人戦	七海　祐命（１Ｉ）	１回戦敗退

■テニス（女子）

学校対抗		ベスト16

■卓球（男子）

学校対抗		３回戦敗退
シングルス	中丸　智貴（１Ｅ）	３回戦敗退
〃	冨塚　俊太（１Ｋ）	３回戦敗退
〃	鈴木　将士（２Ｍ）	２回戦敗退
〃	大浦　昌也（２Ｅ）	２回戦敗退
〃	青木　勇斗（１Ｍ）	２回戦敗退
〃	天野　景介（１Ｍ）	２回戦敗退
ダブルス	中丸　智貴・青木　勇斗	ベスト16

■卓球（女子）

学校対抗		ベスト８
シングルス	滑川　侑佳（１Ｉ）	ベスト16
〃	今野小百合（１Ｋ）	ベスト16
〃	金成　亜実（２Ｉ）	３回戦敗退
ダブルス	滑川侑佳・今野小百合	ベスト８

■剣道（男子）　１回戦敗退

団体戦	高専０－４ 白河旭高校	

■水泳（男子）

50m自由形	斉藤　大明（１Ｉ）	第11位
〃	山下　賢也（１Ｍ）	第56位
〃	平木　義久（１Ｍ）	第58位
100m自由形	斉藤　大明（１Ｉ）	第20位
〃	猪狩　聖人（１Ｅ）	第36位
〃	横山　佳輝（１Ｍ）	第55位
200m自由形	佐藤　祐樹（２Ｍ）	第２位
		（東北大会出場）
〃	横山　佳輝（１Ｍ）	第29位
〃	平木　義久（１Ｍ）	第36位
400m自由形	佐藤　祐樹（２Ｍ）	第２位
		（東北大会出場）
〃	猪狩　聖人（１Ｅ）	第18位
〃	山下　賢也（１Ｍ）	第21位
100m背泳ぎ	関根　健恭（１Ｍ）	第30位
200m背泳ぎ	関根　健恭（１Ｍ）	第22位
100m平泳ぎ	圓子　智弘（１Ｅ）	第15位
〃	増田伊扶己（１Ｋ）	第32位
200m平泳ぎ	圓子　智弘（１Ｅ）	第８位
〃	増田伊扶己（１Ｋ）	第27位
100mバタフライ	紺野　貴裕（２Ｃ）	第19位
200mバタフライ	紺野　貴裕（２Ｃ）	第12位
400mリレー		第９位
400mメドレーリレー		第７位

■水泳（女子）

50m自由形	若松　真純（１Ｉ）	第15位
100m自由型	若松　真純（１Ｉ）	第18位
100m平泳ぎ	鈴木　姫花（２Ｉ）	第21位
200m個人ﾒﾄﾞﾚｰ	鈴木　姫花（２Ｉ）	第12位

■バドミントン（男子）

シングルス	佐藤　太一（２Ｉ）	３回戦敗退
ダブルス	高柴　貫爾（２Ｍ）	
	鈴木　啓人（２Ｍ）	２回戦敗退

◎第18回東北高等学校新人水泳競技大会

200m自由形	佐藤　祐樹（２Ｍ）	予選敗退
400m自由形	佐藤　祐樹（２Ｍ）	第４位

◎東北地区高専体育大会鶴岡大会

ラグビーフットボール競技	第３位

◎第８回福島県高等学校秋季ソフトテニス選手権大会

男子団体		予選敗退

◎第40回福島県高等学校ソフトテニスインドア選手権大会

男子個人戦	佐藤　伸耶（ＩＥ）	
	大和田　嵩（ＩＫ）	２回戦敗退

◎第37回福島県ジュニアダブルステニス選手権大会

女子ダブルス	鈴木　優花（１Ｃ）	
	髙橋ちひろ（１Ｉ）	１回戦敗退

◎全日本卓球選手権大会　福島県予選会

ジュニア男子		
シングルス	青木　勇斗（１Ｍ）	３回戦敗退
〃	天野　景介（１Ｍ）	３回戦敗退
〃	中丸　智貴（１Ｅ）	３回戦敗退
〃	鈴木　将士（２Ｍ）	１回戦敗退
〃	大浦　昌也（２Ｅ）	１回戦敗退
〃	冨塚　俊太（１Ｋ）	１回戦敗退
ジュニア女子		
シングルス	滑川　侑佳（１Ｉ）	第１位
		（全国大会出場）
〃	金成　亜実（２Ｉ）	４回戦敗退
〃	今野小百合（１Ｋ）	４回戦敗退
一般男子		
ダブルス	松本　知也（３Ｉ）	
	桑嶋　　隆（３Ｍ）	ベスト16
〃	吉田　圭佑（５Ｃ）	
	谷水　信吾（５Ｋ）	４回戦敗退
〃	永井　一喜（４Ｍ）	
	渡辺　大樹（４Ｋ）	３回戦敗退
〃	大浦　昌也（２Ｅ）	
	鈴木　将士（２Ｍ）	３回戦敗退
一般男子		
ダブルス	丹野　　淳（１ＣＫ）	
	佐藤　勇人（３Ｋ）	２回戦敗退
〃	中丸　智貴（１Ｅ）	
	青木　勇斗（１Ｍ）	２回戦敗退
一般女子		
ダブルス	小野　　緑（４Ｋ）	
	安島　真理（４Ｉ）	第３位
〃	小野　仁美（３Ｉ）	
	金成　亜実（２Ｉ）	ベスト８
〃	猪狩　美咲（４Ｃ）	
	安島　恵理（４Ｉ）	４回戦敗退
〃	滑川　侑佳（１Ｉ）	
	今野小百合（１Ｋ）	４回戦敗退
一般混合		
ダブルス	丹野　　淳（１ＣＫ）	
	安島　真理（４Ｉ）	４回戦敗退
〃	渡辺　大樹（４Ｋ）	
	金成　亜実（２Ｉ）	４回戦敗退
〃	＊いわき卓球所属選手	
	小野　　緑（４Ｋ）	４回戦敗退
〃	松本　知也（３Ｉ）	
	滑川　侑佳（１Ｉ）	４回戦敗退
〃	永井　一喜（４Ｍ）	
	小野　仁美（３Ｉ）	３回戦敗退
〃	桑嶋　　隆（３Ｍ）	
	今野小百合（１Ｋ）	３回戦敗退
〃	吉田　圭佑（５Ｃ）	
	安島　恵理（４Ｉ）	２回戦敗退
〃	江尻　義史（４Ｋ）	
	猪狩　美咲（４Ｃ）	２回戦敗退
〃	佐藤　勇人（３Ｋ）	
	＊磐城一高選手	２回戦敗退
一般男子		
シングルス	松本　知也（３Ｉ）	ベスト16
	丹野　　淳（１ＣＫ）	２回戦敗退
	吉田　圭佑（５Ｃ）	２回戦敗退
	谷水　信吾（５Ｋ）	２回戦敗退
	内田　権一（４Ｃ）	２回戦敗退
	吉田　貴郎（４Ｃ）	２回戦敗退
	江尻　義史（４Ｋ）	２回戦敗退
	桑嶋　　隆（３Ｍ）	２回戦敗退
	佐藤　勇人（３Ｋ）	２回戦敗退
	永井　一喜（４Ｍ）	１回戦敗退
	坂下聡一朗（４Ｃ）	１回戦敗退
	渡辺　大樹（４Ｋ）	１回戦敗退
	石井　裕也（３Ｍ）	１回戦敗退
	高萩　　航（３Ｉ）	１回戦敗退
一般女子		
シングルス	小野　　緑（４Ｋ）	ベスト16
	安島　真理（４Ｉ）	ベスト16
	猪狩　美咲（４Ｃ）	２回戦敗退
	安島　恵理（４Ｉ）	２回戦敗退
	滑川　侑佳（１Ｉ）	２回戦敗退
	小野　仁美（３Ｉ）	１回戦敗退

◎平成22年度全日本卓球選手権大会

ジュニア女子		
シングルス	滑川　侑佳（１Ｉ）	１回戦敗退

■サイクリング部

・秋季ツーリング（裏磐梯）　実施
（猪苗代周辺、磐梯山周辺、桧原湖畔、白布峠）

文化部・研究会・サークル

■写真部

・第35回関東信越地区高専文化部交流会　参加

伊藤　裕佳（２Ｃ）	気に入ったで賞
伊藤　裕佳（２Ｃ）	季節賞
松本江里子（１Ｉ）	季節賞
大家　若菜（２Ｃ）	Cool:じゃぱん賞

・いわき地区高等学校写真連盟写真展

河野はるか（１Ｃ）	特選・入選
伊藤　裕佳（２Ｃ）	準特選
大家　若奈（２Ｃ）	準特選・入選
松本江里子（１Ｉ）	入選
吉田華菜子（１Ｉ）	入選・入選

・福島県高等学校写真連盟写真展　参加
・東北地区高等専門学校文化部発表会 写真部門

河野はるか（１Ｃ）	特選
菅野　優香（１Ｃ）	入選
松本江里子（１Ｉ）	入選
吉田華菜子（１Ｉ）	入選

・古殿町「秋のフォトコンテスト」
秋祭り部門　吉田華菜子（１Ｉ）　特選
松本江里子（１Ｉ）　佳作
・入遠野「満月祭」撮影会　実施
・古殿八幡神社　流鏑馬撮影会　実施
・高専祭『写真展』　開催
・裏磐梯への撮影旅行　実施
・いわき街なかコンサートinＴＡＩＲＡ撮影ボランティア活動　実施
・フラガールズ甲子園撮影練習会の撮影会　参加

■吹奏楽部

・第32回定期演奏会　実施
・第38回福島県アンサンブルコンテスト
木管三重奏　銀賞
サクソフォーン四重奏　銀賞
・第48回いわき市吹奏楽新人演奏会　参加

■美術部

・東北地区高等専門学校文化部発表会 絵画部門
諸橋由紀恵（４Ｉ）　入選

■将棋部

・第19回全国高等学校文化連盟将棋新人大会
福島県大会　矢部　幸祐（１Ｅ）　予選敗退
佐波　克久（１Ｋ）　予選敗退

■茶華道部

・いわき学校茶道連盟・第30回合同発表会　参加

■弓道愛好会

・福島県高体連新人体育大会いわき地区大会　参加
・いわき地区学年別弓道大会　参加
・いわき地区学校対抗試合（Ａブロック）　参加
品川　歩生（１Ｋ）　女子個人３位
林　　咲季（２Ｃ）　女子個人６位
・平成22年度福島県弓道連盟強化事業いわき地区選抜代表選考会
林　　咲季（２Ｃ）　敗退

■分子生物学愛好会

・第３回先端ものづくりチャレンジ2010in習志野
競技部門 知能ロボット競技
チーム名「堀越くまさんＲａｉｎｂｏｗ」
マシン名「ふみちゃん」
小林　　翠（２Ｃ）　松崎　優香（２Ｃ）
笠原　渚子（２Ｉ）　鈴木　彩美（２Ｃ）
決勝進出（デザイン賞受賞）

■ストリートダンスサークル

・第35回関東信越地区高専文化部交流会　参加

■演劇愛好会

・第35回関東信越地区高専文化部交流会　参加

◎アイデア対決・全国高専ロボコン2010
東北大会（秋田高専第一体育館）
・福島高専Ａチーム「もぉ～ダッシュあかべえ号」
馬場　将亮（５Ｍ）・二瓶　　光（３Ｍ）
永山　昌輝（３Ｅ）　　２回戦敗退
・福島高専Ｂチーム「機馬追」
布田　大祐（４Ｍ）・菅家　麻美（４Ｍ）
大和田誠人（３Ｅ）　　２回戦敗退・デザイン賞

◎全国高等専門学校第21回プログラミングコンテスト
【課題部門】
タイトル「Ａ２Ｄ　Ａｌｂｕｍ」
赤塚　　篤（４Ｅ）・佐藤　貴啓（３Ｅ）
増子　宏大（２Ｍ）・高橋真奈茄（２Ｅ）
齋藤　進成（２Ｃ）　　敢闘賞
【競技部門】
タイトル「アリーナー遠き昔の懐かしき記憶－」
松島　　弘（４Ｅ）・江藤　奨平（３Ｅ）
赤津　　亘（２Ｃ）　　１回戦敗退

◎全国高等専門学校デザインコンペティション2010
【構造デザインコンペティション部門】
作品名「Ｄ．Ｂ．～ドット・ブリッジ～」
江尻　義史（４Ｋ）・猪狩　一哉（４Ｋ）・志賀　　暢（４Ｋ）
渡辺　一樹（４Ｋ）・渡辺　　直（４Ｋ）・大竹　剛史（４Ｋ）
第32位

【環境デザインコンペティション部門】
作品名「賢沼再生プロジェクト
富栄養化した沼の水質改善と環境制御
による環境維持活動の試み」
市井　雅伸（ＣＫ１）・北　　広心（５Ｃ）
佐藤　智彦（５Ｃ）　・佐藤　涼太（５Ｃ）　　予選参加

【空間デザインコンペティション部門】
作品名「温泉を活用した住空間づくり」
石井　侑希（４Ｋ）　　予選参加
作品名「サンシャインいわきのエコロジカル
次世代型ハウス」
加藤　湧亮（４Ｋ）　　予選参加
作品名「浜風吹く風と光の空間」
佐藤　京平（４Ｋ）　　予選参加
作品名「風の吹き抜ける家、光が差し込む家」
圓山　　亮（４Ｋ）　　予選参加

【ものづくりコンペティション部門】
作品名「コンパクト洗濯物干し」
岩崎　廣和（５Ｋ）　　予選参加

◎第２回東北地区高等専門学校英語スピーチコンテスト
目黒　　茜（２Ｉ）　　第１位

◎第４回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト
【スピーチの部】　目黒　　茜（２Ｉ）　　第１位

◎第１回原子力・エネルギーに関する課題研究コンクール
全国大会
鈴木　美穂（３Ｍ）・根本　史香（３Ｃ）
萩谷　紗歩（３Ｃ）・橋本　千奈（３Ｃ）
松原　若菜（３Ｃ）　　優秀賞

◎第69回全日本学生児童発明くふう展
作品名「ハイブリッド自動車用排熱回生システム」
大内田優理（３Ｅ）　　奨励賞

学生表彰・特別表彰

◎平成22年度電気学会高校生懸賞論文コンテスト
最優秀論文賞　　矢吹　明紀（４Ｅ）

◎在学中に電気学会から３件の学術表彰を受賞
・平成22年電気学会産業応用部門ＹＰＣ優秀発表賞
・ＩＥＥＥ　ＩＡＳ日本支部2010ヤングエンジニアコンペティションアワード
・平成20年電気学会優秀論文発表賞（支部大会）
鈴木　定太（２ＭＥ）

◎東北地区高等専門学校体育大会
陸上競技男子三段跳　５年連続優勝
佐藤　義剛（５Ｍ）

◎第１回原子力・エネルギーに関する課題研究コンクール
優秀賞　　鈴木　美穂（３Ｍ）
根本　史香（３Ｃ）
萩谷　紗歩（３Ｃ）
橋本　千奈（３Ｃ）
松原　若菜（３Ｃ）

◎平成22年度パテントコンテスト高専の部
特許出願対象選定
高橋　智大（４Ｋ）

◎ＴＯＥＩＣ検定試験900点
藤島　杏菜（２ＢＩ）
ノルカリラ・ビンティ・ラムリ（４Ｋ）

◎第４回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト
スピーチの部　第一位
目黒　　茜（２Ｉ）

◎平成22年度独立行政法人国立高等専門学校機構学生表彰
鈴木　定太（２ＭＥ）

学会表彰

◎社団法人日本機械学会（畠山賞）
宇佐美博士（５Ｍ）

◎電子情報通信学会東北支部 優秀学生賞
一ノ瀬智浩（５Ｅ）

◎電気学会東北支部 優秀学生賞
平子　美月（５Ｅ）

◎日本化学会東北支部長賞
猪狩　佑允（５Ｃ）

◎全国高専土木工学会（近藤賞）
加藤　雅俊（５Ｋ）

◎社団法人全国経理教育協会 表彰
小野　聡美（５Ｉ）
鈴木　基代（５Ｉ）
山内　　恵（５Ｉ）

◎国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所主催 浜通り管内技術業務報告会
「いわき市における雨水ますのボウフラ発生調査」
荒玉　菜奈（５Ｋ）　　優秀賞

学生の表彰

原子力と共に生きる

物質工学科　３年　松原　若菜

私達は鈴木茂和先生のご指導のもと文部科学省が主催する「原子力・エネルギーに関する課題研究コンクール」に参加しました。このコンクールは、原子力を含めたエネルギーに関する壁新聞を提出することを一次審査とし、この中から選ばれた８校のプレゼンテーションによる全国大会を開催するものでした。私達は「原子力発電における自治体・事業者の安全への取組み～過去・現在・未来～」というテーマで壁新聞を作成しました。私達は原子力についての知識がなかったので、最初は専門用語や原子力の仕組みを理解するのが大変でしたが、大阪での交流会や自治体・事業者への調査を経て沢山の知識を得ることができました。調べた事を決まった大きさにまとめるのは大変でしたが、初めての新聞作りはとても楽しかったです。一次審査の結果、私達は東京大学で開催された全国大会に出場し、次席にあたる優秀賞を受賞しました。少し悔しい結果となりましたが、他校の発表はどれも素晴らしいもので、新しい観点を得ることができました。

全国高専英語プレゼンテーションコンテストに参加して

コミュニケーション情報学科　２年　目黒　　茜

このコンテストは私に、英語を通して自分自身に向き合う時間を与えてくれました。コンテストに向け何度も原稿を直したり、発音の練習をしたりしました。もっとよくなるよう努力してきた日々を振り返ると大変でしたが、楽しい思い出ばかりです。努力すればするほどスピーチは良くなり自分自身の意識も高まり、努力に限界がないことに気づかされました。結果ではなく、最後まで一生懸命に頑張ることが一番大切なのではないかと思います。この賞は私一人のものではなく、応援し、支えて下さった先生方のものでもあります。多くの人に支えられ、今の私がいます。これからも感謝の気持ちを忘れず、色々なことに挑戦していきたいと思います。

新任教職員紹介

物質工学科　助教　**山内　紀子**

昨年10月より物質工学科の助教となりました山内紀子です。高分子微粒子の合成をテーマに研究しておりまして、授業は高分子化学や有機合成などを担当しております。人生について考え進んでいかなければならない年代の学生たちの教育に携わる責任を感じながら、無我夢中で最初の半年を過ごして参りました。福島高専の益々の発展に貢献できるよう精一杯努めて参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

コミュニケーション情報学科　助教　**成島　康史**

昨年の10月にコミュニケーション情報学科の経営工学系の教員として赴任いたしました成島康史です。担当科目は経営工学系の授業である管理工学、生産管理論や経営数学といった科目を受け持つこととなります。

理系離れが進んでいるといわれる昨今ですが、一人でも多くの学生に「おもしろい」と興味を持ってもらえるよう頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務部　総務課　施設管理係長　**齋藤　栄一**

10月１日付けで東北大学工学部事務部から赴任しました。平成７年４月に建築分野の施設担当職員として東北大学で採用されて以来、仙台を離れるのは２年間の文部科学省実務研修に続き２度目となります。本校での担当業務は今まで経験したなかで最も分野が広く初めて経験する事ばかりで教職員他関係する皆様に助けていただきながら仕事を進める毎日ですが、早く慣れて皆様のお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

退職者紹介

14年間を振り返って

機械工学科
教授　**佐東　信司**

14年間を振り返ると走馬灯のように思い浮かびます。ゴルフクラブの開発のために寒空のゴルフ場で深夜までデータ取りを行ったこと、じゃんがらロボットを作ったことなど、楽しいことが沢山ありました。また、公務では平成13年からの教務主事の時は、高専教育の変換期で改革の波に乗り遅れない対策に翻弄しました。学生教育への貢献を考えると１)全科対応の専攻科設置のために文部科学省を説得し、工学系以外の専攻を国内で初めて認可してもらいました。２)ロボット技術研究部を設立し、高専ロボコン全国大会出場を記念して福島県中学生ロボット競技会を立ち上げ、また高専ロボコンの運営ではＮＨＫと一緒に課題設定し、二足歩行ロボット競技を３年間続けたことで多くの高専で二足歩行ができるまでに成長してくれました。３)原子力人材育成教育を充実させ、全国でも代表される高専と認められるまでに向上させることができました。最近はやりの外部評価でどの程度に評価されるか分かりませんが、自分の信じる目標に向かって挫けずに邁進することが自分を成長させてくれると思います。

この度、退職いたしますが、文部科学省から大学教育改革プログラムで機械工学科のモノづくり教育が来年まで採択されており、纏め上げるために継続して１年間勤務することになりました。また、長岡技術科学大学学長特命アドバイザーおよび高専機構の産学官連携アドバイザーとして勤務することになりました。今後とも宜しくお願いいたします。

偉人の気概に学ぶ

コミュニケーション情報学科
教授　**森川　　治**

「死して不朽の見込みあらば、いつ死んでも良いし、生きて大業を成し遂げる見込みあらば、いつまでも生きたらよいのである。つまり、人間というものは、生死を度外視して、要するにすべきをなす心構えこそ大切なのだ。」これは、高杉晋作の「人間（男子）の死すべきところは」の質問に対して、吉田松陰先生が遺書「留魂録」で答えられた先生の死生観である。

このように自己を厳しく見つめ、自分に与えられている場を大切にし、一瞬々精いっぱい生きたいものである。学生諸君もこの言葉を噛みしめ、勉学・部活動等に取り組んでもらいたい。15才から22才にどのように取り組むかで一生が決まってしまうことを忘れず、一層頑張って下さい。

君達の活躍を期待しております。

最後に長きに渡り支えて下さった皆様に感謝申し上げます。

とぴっくす

第十回「福島県中学生ロボット競技会」を開催しました

県内から23チームが参加して本校第１体育館で平成22年12月23日(木)に開催

競技会実行委員長　佐東　信司

第十回目の区切りの年を迎へ、県内の中学校から18チームが参加して開催しました。

競技内容は、１）登り坂を走行する登坂競技、２）毎年異なる応用競技でつみき灯台競技です。つみき灯台競技は積み木を３段まで積み重ねることができ、その上にボールを載せます。競技時間内に積み上げた積み木数およびその上に載せたボールの合計点で順位を決めます。この２種類の競技は、本校が提供した駆動部の規定部品等を用いてロボットを作製します。積み木はフィールド上、ボールは球置き場に入れておき、ボールを球置き場から取出す方法、運ぶ方法、および積み木頂上へ載せる方法へのアイデアが重要となります。

つみき灯台競技

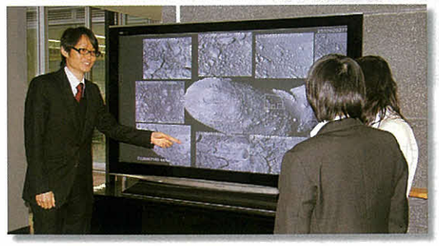
登坂競技では１位が天栄中学校Ｂ（4.57秒）、２位が楢葉中学校Ａ、３位が小名浜第一中学校Ａでした。つみき灯台競技では１位が小名浜第一中学校Ａで積み木を全て重ねてその上にボールを乗せ178秒でパーフェクトを達成した唯一のチームでした。２位は磐崎中学校Ａ、３位が小名浜第二中学校Ａでした。

総合優勝は小名浜第一中学校Ａ、総合２位は楢葉中学校Ａ、総合３位は小名浜第二中学校Ａでした。小名浜第一中学校は昨年度も総合優勝しており、学校挙げての取組みで生徒と教員が一丸となって競技会に参加していたことが印象的でした。

生徒の真剣なまなざしと競技への挑戦を見つめていると将来の技術者への期待が膨らんできます。

小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクト支援で感謝状が贈られました

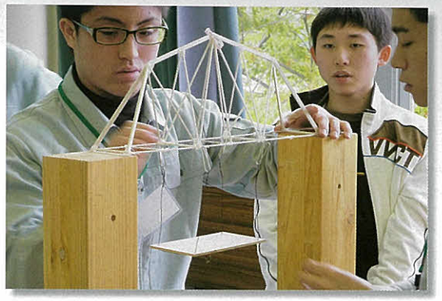
12月２日(木)、小惑星探査機「はやぶさ」は人々に夢や希望を与えたとして、宇宙航空研究開発機構とプロジェクトを支援した福島高専を含む19の大学等と99の企業に対して、海江田万里宇宙開発担当相と高木義明文部科学相から大臣感謝状が贈られました。



授賞式に出席した本校一般教科道上達広准教授は、「はやぶさ」打ち上げ前の1998年(平成10)からプロジェクトに携わり、はやぶさがサンプルを採集するときの状況を想定するため、小惑星「イトカワ」の表面の研究を行ってきました。その後も、はやぶさから届く画像を分析し、イトカワが衝突によって生じた破片が集まった「がれきの寄せ集め」と考えられることを明らかにしました。

福島県中学生ブリッジデザインコンテストが開催されました

本コンテストは、「ＡＣＦ：アカデミア・コンソーシアムふくしま」の戦略的大学連携推進事業の一環として、福島大学をはじめとする４大学との連携の下に、主務校である本校の、建設環境工学科教員と学生の企画・運営・指導により実施したものです。

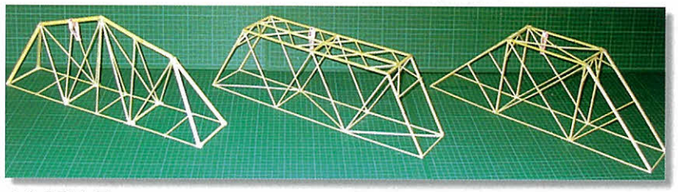

コンテストの様子

製作の様子

内容は、一ヶ月に亘る「学んで」・「作って」・「コンテスト」の３回シリーズの講座で、最終回のコンテストは「磐陽祭」の建設環境工学科の催し物も兼ねて、県下15中学校から計31名の参加者を得て実施しました。

設計・製作・競技の内容は45cmのスパンを渡る立体トラス橋モデルを、太い３㎜角と細い２㎜角のバルサ材（長さ900㎜）合計７本以内から切り出した部材のホットボンド接合で製作し、４点載荷の強度実験を行って、より広い通路の(使用性)・より強い橋を(耐荷性)・より少ない材料で(経済性)の総合性能を競いました。

参加者は、思い思いの橋模型を、難かしい課題と格闘しながらも、壊れ方や強度を試しながら製作し、コンテストは、19.5kgfの荷重に耐えた模型を頂点に、高性能な作品によるハイレベルなものとなり、参加者の満足度も高く、大いに成果をあげることができました。


上位入賞作品

奈良宏一校長がＩＥＥＥフェローに昇格しました

奈良宏一校長が、2011年１月１日付で「配電系統自動化に関する貢献」で米国電気電子学会（Institute of Electrical & Electronics Engineers: IEEE）フェローに昇格しました。

ＩＥＥＥフェローの資格はＩＥＥＥに関連する分野で顕著な業績をあげた人物にＩＥＥＥ理事会が贈るものです。年間に昇格する総数は選挙資格がある会員数の0.1%を超えることはできません。ＩＥＥＥフェローは会員の最上位の資格であり、名誉と貴重な経歴となります。2011年には世界中の36万人の会員のうち、日本からの16名を含む321名が昇格しました。

奈良校長は35年以上にわたって電力系統並びに配電系統の最適計画・運用分野で研究をしてきました。この分野で、これまでに50編以上の学会誌論文と100編以上の国際会議論文、５編の著書を著しました。特に、配電系統運用・計画分野と電力系統への知的システムの応用分野で著名です。